

3. コンクール受賞作品一覧

大人の部

○最優秀賞

- ・言葉「しあわせはいつもじぶんのところがきめる」
題名「転勤族，でも転校したって大丈夫」・・・・・・・・・・ 1 1
- ・言葉「我以外皆我師也」
題名「まねっこ大作戦」・・・・・・・・・・ 1 2

○優秀賞

- ・言葉「一隅を照らす」
題名「心和む空間に」・・・・・・・・・・ 1 3
- ・言葉「継続は力なり」
題名「へたっぴなお手本」・・・・・・・・・・ 1 4
- ・言葉「案ずるより産むが易し」
題名「大丈夫。心配しすぎないで」・・・・・・・・・・ 1 5



私は転勤先で一番にする事があります。

その地域の良い所、楽しい所探しを子供たちと一緒にする事です。

知る事でその土地や人を好きになれると思うからです。

私の育った地域は転勤する人が少なく、主人の転勤を知らされた時は「嫌だ!!」という気持ちが先行しました。

転勤後もその気持ちは消える事なく、地元と比べては嫌いな所を並べて、自分がとても不運で不幸だと思っていました。

心の転機が訪れたのは子供が物心つく様になった頃です。

「あ～！もう、実家に帰りたい…」と漏らした私に

「え？なんで？」と聞いてきた子供の悲しそうな顔は今でも忘れません。

その時、“私がこんなではダメだ、変わろう。”と決意しました。

それからは子供たちと一緒に転勤先のご当地キャラクターを覚えたり、何処の地域でも楽しめる趣味をみつけたり、まだ行った事のない場所を散策したりしました。

そうしているうちに、**友達が増え、友達がいると楽しくなり、楽しくなると幸せを感じる事が多くなりました。**

そして、**自分が幸せでいる事は、家族や周囲も幸せにする**と気付きました。

今でも帰省すると「大変でしょ？」「転校とか可哀想だよね。」と言われます。

しかし私はもうそうは思いません。

嫌だ、大変、好き、楽しい、幸せ、は全て自分次第だともう知っているからです。



言葉「我以外皆我師也」
 題名「まねっこ大作戦」

菅野 裕之さん





数年前のことです。所用でバスに乗る機会があったのですが、夕方ということもあり学生が多く、車内は少々混み合っていました。私の待つ停留所には、私と年配の女性が一人いましたが、幸いなことに二・三席空いていたので、私は特に迷うことなく乗り口から最寄りの席に座りました。バスが走りだし、ふと顔をあげると、意外な光景が目に入りました。自分より後方の空いている座席に座ると思われていた女性が、自分よりも前方の座席に座っていたのです。そしてその近くには席を譲ったと思われる男子高校生の立ち姿が。「後ろでもよかったのに悪いね」と声をかける女性に対し、彼はこう答えていました。

「後ろはうちの学校の騒がしい奴らが多いから、こっちの方がいいっすよ」と。

その心遣いに私は大変感動しました。

私たちが感じる「良さ」は大人だからわかる、子供にはまだわからないものではないのです。

今回のこの心遣いのように**老若男女問わず学ぶべき姿はそこかしこにあるのだ**ということに気づかされました。

この出来事以来、私は私の周りの人たちのいいところをどんどん探し、どんどんまねていく「まねっこ大作戦」を実施しています。

職場の先輩からは、効率のいい仕事のやり方をまねっこ、後輩からはフレッシュな考え方をまねっこ、

縁あって地域の子供たちを相手に柔道教室を開催しているのですが、子供たちへの言葉かけのしかたは、

保護者の方々の優しい言葉遣いをまねっこさせてもらっています。

最近では、柔道教室に通う生徒たちが、私とそっくりの口調で年下の子に教えている姿があり

「まねっこ大作戦」は人から人へつながっていくことにも気が付きました。

「我以外皆我師也」多くの人たちと接しながら絶えず学び続けられるよう、私の「まねっこ大作戦」はこれからも続いていくのです。

言葉「一隅を照らす」
題名「心和む空間に」

川出 浩美さん





「あそこにお花を飾ってくれているのは、先生ですか？」
休み時間に一人の生徒から声をかけられた。

「少しずつ花の種類が変わるので楽しみにしています。」と。
いつも穏やでしっかり者の彼女は、クラスのお姉さんの存在である。

何気なくかけてくれたその言葉に、ほっとさせられた。

コロナ元年度のごとく始まった学校生活。
毎日の検温確認と消毒指導の徹底に、閉塞感がつのるばかりである。
多感な中学生の教室には「心ない言葉」が飛び交うこともある。

そんな中で、自分の癒しとして廊下の片隅に寄せ植えを飾った。
トイレの入口付近には、木ぶなのマスコットを置き
疫病退散の願いを表してみた。

**一人でも、二人でも目を留めて、「あれ一つ、こんなところに…」と
気付いてくれるのを、ささやかな楽しみにしている。**

来週は、川べりのススキを折って生けてみようか。



言葉「継続は力なり」
題名「へたっぴなお手本」

ヘーガン 倫子さん





大人は子の良いお手本であれ、とついがんばりすぎてしまう。
お手本はいつも上手で洗練されたものでなくてはいけないというわけではない。

**続けることの大切さを我が子に見せたくて私は毎日、
家でウクレレを練習している。**

私は初心者なのでウクレレは下手っぴである。

家族にとっては騒音かもしれない。

「毎日よくやるよ。」と心の中で我が子が呆れていたらしめたものである。

1ヶ月後きっと私のウクレレの変化に気付くからである。

「ちょっと上手くなった？」と家族が少しでも思ってくれたら

私は「継続は力なり」を実現出来たことになる。

我が子に「毎日、漢字練習を少しずつやろう」と口で言うより

**「続けたら今日は出来なかったことも1週間後に出来るかもしれないよ」
というメッセージを強く伝えられたら素敵ではないか。**

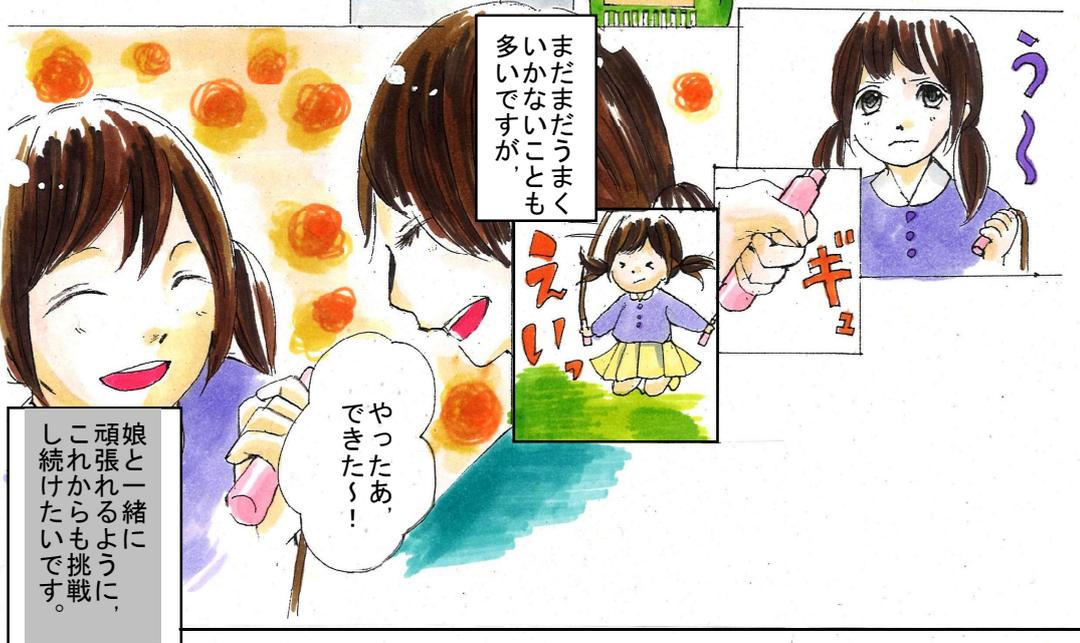
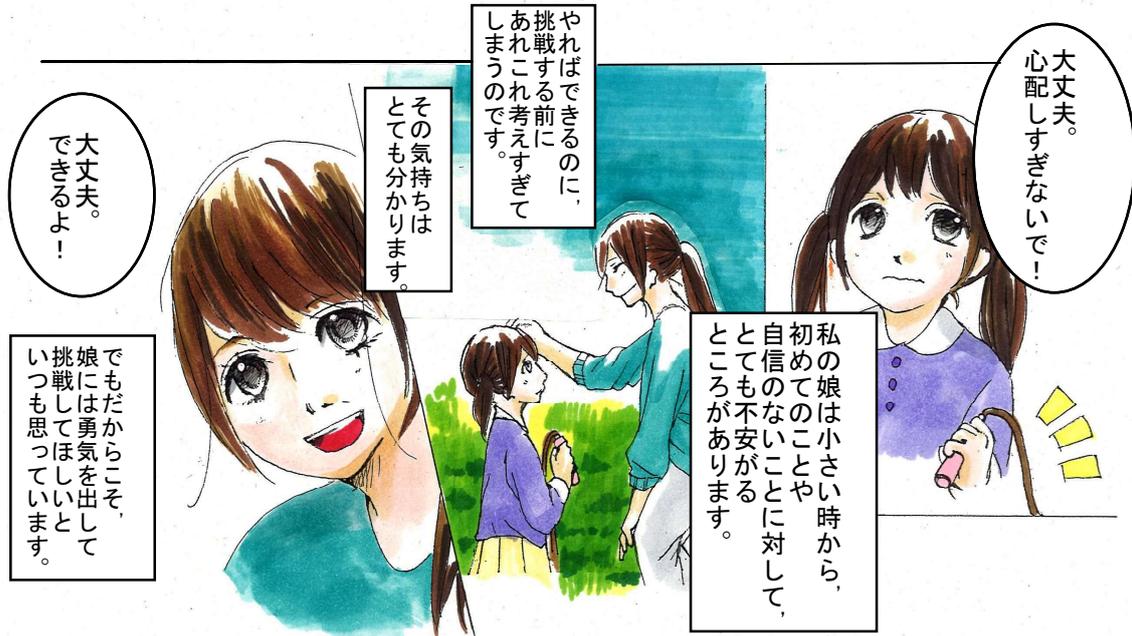
そんなことをひそかに心に思いながら

私は今日も楽しく下手なウクレレを家族の前で弾くのだ。



言葉「案ずるより産むが易し」
題名「大丈夫。心配しすぎないで」

小谷 真由美さん





「大丈夫。心配しすぎないで」これは私が娘によく伝える言葉です。私の娘は小さい時から、初めてのことや自信のないことに対して、とても不安がる場所があります。今年、小学校1年生になり、幼稚園とは全く違う環境にめめめする日もよくありました。そんな時はいつも「大丈夫。〇〇なら、できるよ」と励ましてきました。

“案ずるより産むが易し”ということわざがあります。心配していたよりも、実際やってみると案外たやすくできるという意味です。私の娘はまさにこのことわざ通りです。やればできるのに、挑戦する前にあれこれ考えすぎてしまうのです。でもその気持ちはとてもよくわかります。なぜなら私も全くその通りだからです。でもだからこそ、娘にはあれこれ悩んで諦めてしまうより、勇気を出してちょうせんしてほしいといつも思っています。

娘ばかりを頑張らせるのではなく**娘の手本になれるように、最近、私も挑戦をしました。**それは働き始めたことです。要領は決してよくないので、家事や育児をしながら働くことはできるのか、色々不安はありました。

でも“案ずるより産むが易し”
まだまだうまくいかないことも多いですが、**娘と一緒に頑張れるように、これからも挑戦し続けたい**です。

